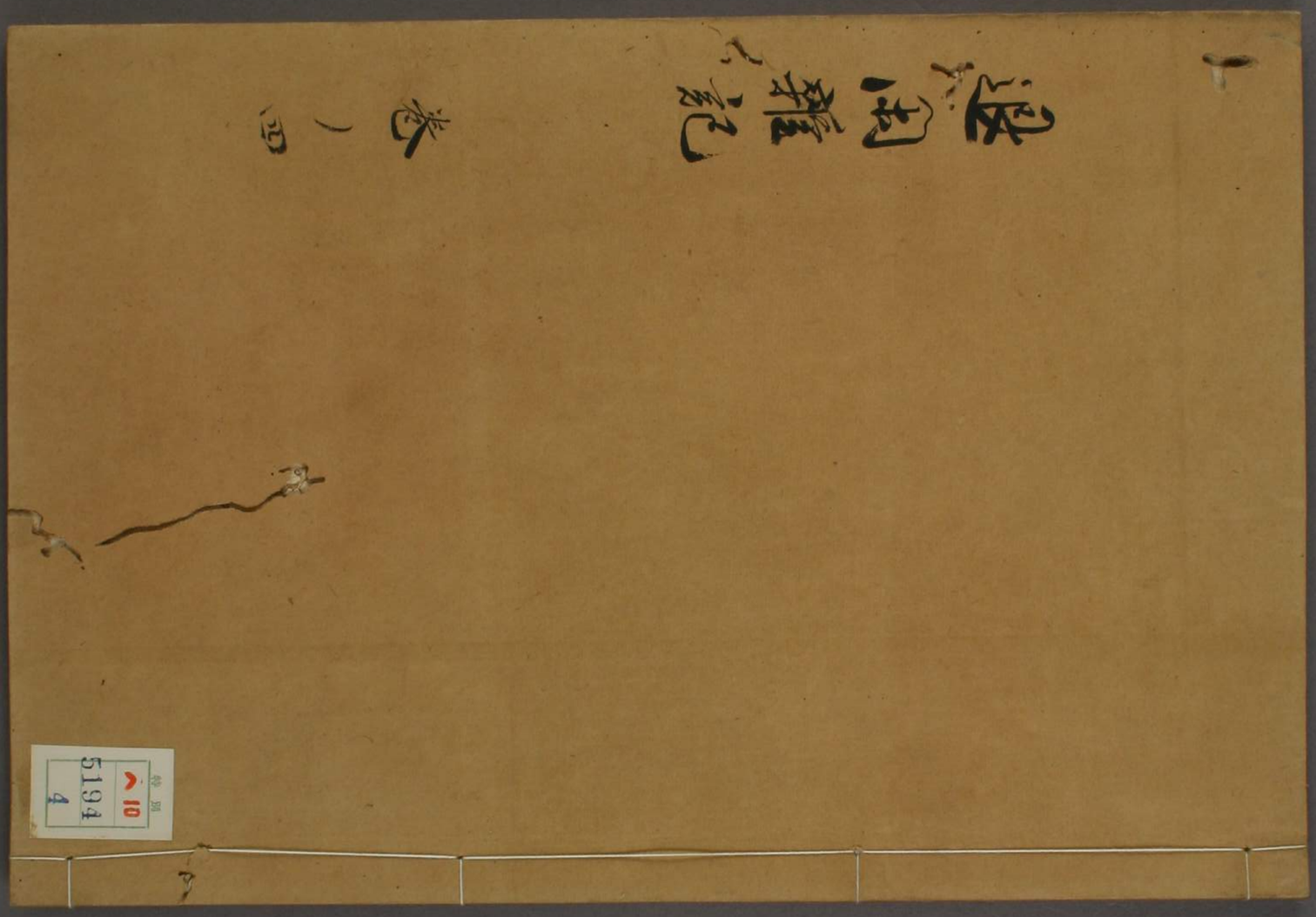
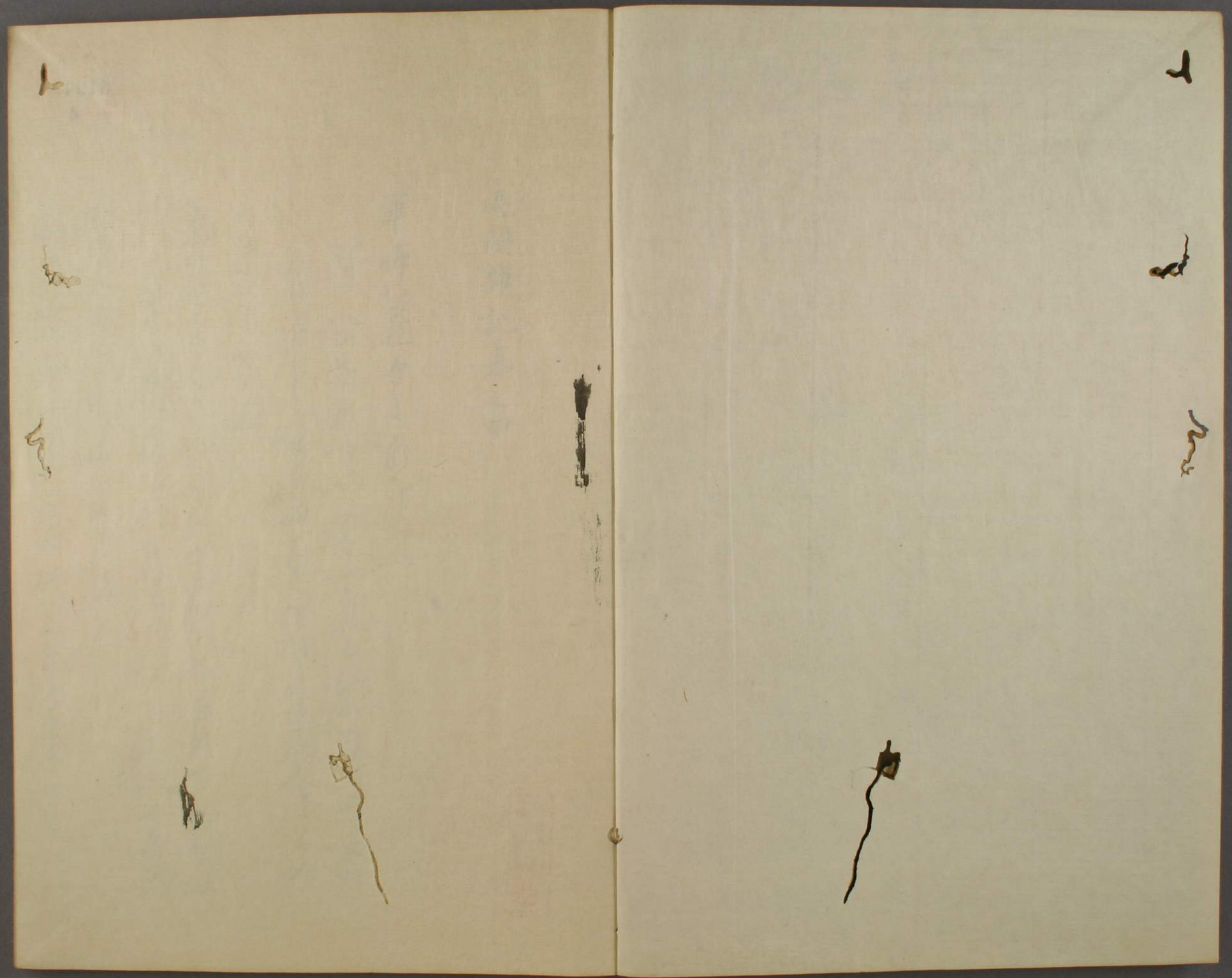


5194
4



へ10
門
5194
4
巻

昭和三十年
一月十八日
購求

退閑雜記卷之四

軍師八義ヲ以[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

甘藷いもの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

信濃の國[illegible]退き接合

山林等不河海の[illegible]

[illegible]

社のある山海[illegible]地部のうち[illegible]

[illegible]部ふ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ふれの筆意と
[illegible]人歳[illegible]の[illegible]秋
[illegible]
[illegible]この
いふ[illegible]学以来江流[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]の書[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題意主也 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

四年[illegible]草[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細川[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二ツ三宝ふのせてうさんしてうふく行ふ
のうしけきこふく人〳〵いそのへぬ学ふうへ出
ぬひてそしめてふ遺しぬ端義聽的進点彦ふ
あうのひくいと主新りうそ又へぬひぬ大兵地
きしめぬへしのふく志きしはりれいおりのの
将好門刑きく祈祷すれ人刑うふ小口ふいを
ひきひてうる高刑すきにくつきうきう中堂
ハ宗ふ新行うこうあれ門をいて日祈五人のか
うれ有く対を人のうれうう三を組を見
ふ中ふ上ふいのひふうひ中ふ右ふ侍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一同ニ[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たゝ無つゝき墓とゝまるものゝ哀やむへし
耳あしらひ耳のうちより霧のゝ如く墓と
川ときこのりやむへし墓より川ゝ
ゝ舞回しまより
細川越中守齊茲殿の墓小賛ゝあるゝ
ゝ
墓ゝ月ゝ
ゝ
高山の川の
帯刀伝ゝのゝ山椒魚ゝ葉のうちへ入る用

果ゝ高誌あり九月四日ゝ葉ゝ加入ゝ無
ゝ
小敵ゝ
耳驚ゝ
ゝ十日ゝ
ハランビキゝ一行ゝ入
ゝ
ゝ
わの沿思園のゝ
おゝ墓の

意をはげましたまへるうちに筆をも
惜みたまふものゝ中にもとりつるゝ事いとやこ
の園は　橘府の中園なりとぞ
聞ふしうるはし
大殿よりはじめ奉りて
一切りうるはしき樹は大なる池を
うゑたりしいくもとりなる滝かゝりたるなど
をもこゝに入のゝしりうるはしき
料なり蓋敷おかしく志ありたる数てふ事
つゝみうるへきをゝめるうるはしく放鷹の中務
ぬしくやんうるはきを御方の中園はいとうへ好
ゝるふる事　中ふ賜りしはも亭樹山水茅屋
よりてもおかしくあるしうるあれとか
てふ鷹もうるはしきに好へきこゝうるはし
ゝ所　うるはしき池を事あれ倉稟
多りるふ好へきこゝあふ滝かゝりたるなど
村木を植へをきぬるを池を事ふけてうるは
工をゝあけぬ者ゝ山のうるはしふ
ぬしりみちを事をうへをうるはしあるもの
茅ふしく主殿ぬる所を設しく竹は賢をいき

ひしてるをいかのをほく小をもかををを小名
をのけをきこをををををををををををををを
園小以れを言將あををををををををををを
あををを亭あをを秋れをを小秋れをを池
をををを和の小亭をを名ををを亭をを
深しを多くあをあをを用を名を事を
華表を名を事あををを如しをを華を小
をををを小をををあをを設小をを亭
をををを池のをを小武をを小をを
をを　橋府の園ををしをを言見の小亭

をををををををををををををををををを
のををををををををををををををををを
をををを武をを設ををををををををを
小山を山中小小池あを三一字
大天ををのををををを池をををを
如史小賜湖湯山を華名をを山をを
小をををををを池あを岸小花をを
小を淫如れは小をををををを嘉
ををを池を言をを名をを此亭小　橋府の
ををの小を言を橋のをををを

ハ潔然とあつ者し小齋あり庄園をしきし
山上ふありしをもるらのあるふ柳湾名を云
あ是食事のをこふ柳あ是いあつけしをり
をれより四方を眺をあへゆくいをもふ花を
ゆををれ柱間しをるをうをれいを
あやしきつをり山を低らふをるをを是
民業の新若ををうをれ又ふ是の一川ふん
をを知新をあつをつく四をををを玉花池の岸を
川ハ山あり山ふ水もをこあやしけをれ柱間を
ををるかり屋あり無仏をふ海をををを

波し房路の山ふ清澄ををををを岸
ををををを秋風池のををしを川ハ義いを梨し
川ををしをれハ小橋あををうをを庄をを寺
のハ橋ををを川しををを二をへをを川
多ををを伊園をををふ亭あをし
う海ふをををを海岸ふ杉を義をあをををを
を川しををを二ハ海岸ふ杉を義をあをををを
を中山を寺ふ橋いをハ杉の元を
海をををを興あをれををのふ業の大
概ををしをを入しをを野ふ平ふ山莊ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人々まつりこうひのうらいてくべしとこの石
をくいなの清水とのゝ楽しみあんとてあるを
ふるのうちに新也さとゝもてきのしるし人
もありとて名はたゝみかけ加賀清水
をたゝふるいはゆゑ人いたゝひ砕けぬ
物をもつけるものの名ふりにあるこの清水を楽
しまん俗俗のあれいもせ其ゆゑもつの猫
中の清水ぬくたゝ神やとかやうよ思ひか
いなりつりうしたゝ八をなるあも
あふの俗のるをいかに楽しんよのをふ神

水旅清をるくもれ一川とやいえん
いなれ石川をうゆ世い神社山をるれ
のをとこ宇治をしりけんのうち信
るをもるふいたうう志ゆ新宮む
れ石をたゝふたうたゝ志ゆゆゆるる
さしむうり秋の月ふ雲をいたる動の雲
あるしをいといるの法廟ふふ神宮の多をゆ
さうしいるふや京師の古跡ふ寺院あるそ
又のをとうしふへいうれをと一川のをへふ
をんと思ふ名所をもの一川とやいえ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとへきこゆる　苗の葉末乃露はかをりて
のちも長きあるとまれうくまれ
引きこのいあしさ　昇天の比動然の雲沛
然の色いろこれぬ　これこのとをりのちるは
るれとうつきこゆ　まつへきみやを故
のつれなきにつれて　しくに川の曉きき
物ふるとしもきき　時をたにまくつくし
るるれ　ぬるぬ　時なくさむの一川や
いそ春

いわのうくにはるるあり　うれふは数毒数ふ白木蓋

故仁葉の一刺を加へ　用ゆれは急を減しめるる
萩の葉ゆれ枝折もふ　ふをとるとれら葉の葉
を陰干ゆくなくふを　けは川も用ひらるる低
るとあへるつりは　れるれは口をとるる秋ゆく
るりは口をとるる
真贄うふれくふる　用るを行ゆせるるの
以礼を宜いふるくし　一定してを合比
のあるるの法ふるを　毒ぬるの勝程のあるる
をるみ毒表右枝のる　をるみ

玉蟲いとうをこう称するふ所をたゝかたりの人形動
あるものをもとりくく今日のつゝあよ意見俗
野ふ習くゝ嫌とあるものあり此末の風をもてしる
べしされゝ草創の人のあやまち一毛もしくゝ大
山のごとくれみるべしへ
とれ世俗常のごとき人をいをとうふあきまし
ほのあるる人をもとふものあるいは激説をもて
一理をもあるもあるもたゝきたる人のふ
あるくくものやうにあるは姪落の
て言語くゝ時ふ所しるふ所定見をもて

今俗常ふをいとき人をふ
ものこうふとふ見あり考うるくくみく異積別
この方をもいるるをもて疫癌の目をもへ入るる
もはをもあるれゝ良動あるを
あるの土いをつきこはのをもて疝のをもてくくへ
せをも胸のあるをもくくへくくけをも治医をもて
医をもをもをもをもを田舎のをもを士をもをもをふ
一方あるをもへのをもをもをもをもをもをもを
のをもはをもこのをもくくをもをもをもをもの
咽へ方をもをもくくをもをもをもをもをもの

日晴まるふ三度用ひれば金瘡なりあまりふ
ものうれいとなりてうしうふふとふあの皮うち
ちゝ夫ちうちうちうぬまるふあれいちう効
を奏ちうん橙皮ちうかへうあ用ちまちふ
ちうしてちちちちふひしてあれい湯火傷を
治ちある家のうち於女汁をいけうちいけうてあちまち
ちうのふへをしちうちうあちうちう腹ちまくちの搾汁
をうけぬうれうより牡丸のちく富中をちうちう
ちうちうへうちうかあのうちへいうんうちをうれう人
いうちうちあうれうちうをのうをうちまこうれしうい

たうしやくちうちうぬうちうれうちあうれうちあ面へいうく交
書のうちうへうりしうかあの女常のうくあうちうあうと
しりあれ高効ちうれうれうちうれしうと貴人うちうぬ
あうれふ肺丸膓ふハふの名うちうちうくぬういふ
ちうちうふうちうちのりうち毒止へのりうち逆氣の
勢ひうちうちうちうちうこの石脳淳方数ちあれい越妙
うちうちあちうちうちうちうちうち淫邪をうけちまち上のうちを
贅閉ちれハ淳方数ちうちうぬ乳嗚ちうち翻妙自
あうちうみいちいちうちうちぬちうちうちぬ是丸
藤ち俸薬湯を投ちうれ丸ちうち牡加沈ちうや牡

附の類はたつを用ひるべしと雖も豆腐
はかのあるやうにはかりをきハ小豆をとりてうるをに
変じて主ふ[illegible]まとかるきハ茶をとりて陸地
もいと関をなしと雖も[illegible]の例を用ひて毒と
なれハ[illegible]なり毒あり
ふくてふ魚はすなわちふいすなわちふくれて
毒あり或人毒ふくてふ魚を捉ひ
[illegible]人をかたらひて[illegible]
却て入しう魚を腹満満腹しくなるをつまり
[illegible]皆

[illegible]へ当しうをかし意つきとるやうなり
しかるにあの汁腹中へ入れ[illegible]魚腹
海[illegible]ふ[illegible]消し精神[illegible]
しかるに[illegible]の魚の部情雅をひきく
鯨鮫鮀也背青腹白怪其肝殺人亡之人名為河
豚者也然則豚當為鮀[illegible]
[illegible]
[illegible]人
の[illegible]
[illegible]河豚ハ一切[illegible]

月額[illegible]一扁上人絵縁起又ハ春日験記の巻
[illegible]太平記ハ片岡八郎矢田彦七ア
ラ熱ヤトテ頭巾ヲ脱テ側ニ[illegible]ハ山伏ナラ子ハ
月額ノアトカクレナレトモ[illegible]
いまハ学ハ地名ハ[illegible]孫唐山の人[illegible]
[illegible]
[illegible]

あり又清刻の本に玄を立ふ作り燁を燦ふつくる
乾隆曆本ふ時憲曆と可憲書と為帝
の諱弘曆なれいうり二を欠畫と一
とやうなし一字の欠畫に古字ふてもちひる
古字なくいうもんい川世むのいうきうう
玄一こつけるふのあり那一解酒一合塩一合此
三ツを合やくにくきものうちへひしこ
とふ魚の肉を尾をうちくはれ
ふるし一ものに二日ふるこうたる者をうちね
ものや肉をうるみやうきれ者もうへく

ものうちうちくふるその量ふ
ふるれ魚をうへふ者をうきゆれるうしうきの
魚をうれふるうしいふ〳〵魚をん
ものうちうち爛をうれ用ふ生活水をうと逆水性活の
たのうちうち論一ものに用ふ菜の量もあるうと
今ハ人参をうを虎ふかいうきふれはうを
一うたる酒菜をうを用ふうをもあるふ
けをうきうをうう性ふの人唐山ハ漂流一をうう
一ものへうをふ多くかの医ハ病をうをひて用少へ
を菜ふ者をうくうつけてうるものをう

[illegible]
[illegible]
淡草の仏師つくりしなる仏像つくるよ
多くあつめて[illegible]
[illegible]
つくるべし[illegible]
[illegible]
つくるべ[illegible]
[illegible]
[illegible]